

新形状バリカン刃

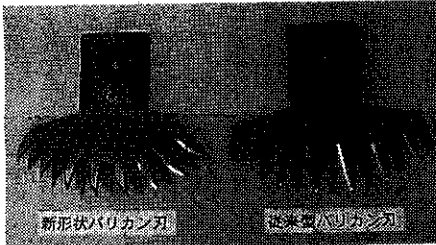
源平刃物が開発 切断時15%以上の節電

（株）源平刃物工場（松尾勝彌社長・兵庫県三木市細川町脇川455の121）はこのほど、切断エネルギーを15%以上低減できる新形状のバリカン刃を開発したことを明らかにした。葎（あじ）を使った実証試験でその省エネ効果を数値確認したもので、従来形状の刃物を装着した場合と比較して、使用電力量を15%以上低減できる。園芸機器のコードレス化が進む中、刃物形状が省エネ効果に直結することを実証したことになり、「コードレス化をバックアップできる刃物開発の第一歩」として注目を集めている。



松尾社長

同社は、100年の歴史をもつヘッジトリマー用バリカン刃の専門メーカー。バリカン刃を主とする各種刃物の性能改善に取り組んできたが、このほど、細径の葎を被切断体とした実証試験において、新形状の刃物を装着した電動式の芝生バリ



新形状バリカン刃

カ（多）の使用電力量を低減できることを確認した。従来から、同社では電動式の芝生バリカンで、種々の形状の刃物の切断性能・特性を把握するために、樹木の小枝にみたてて、ヨシズや籐（すたれ）に使われている葎を使用し、切断試験を実施してきたが、切断性能が格段に上がる刃物形状が

新形状のバリカン刃（左）は刃ごとにアールが付いている

あることに気がつき、その形状と効果を特許・実用新案として申請していた（意匠登録第1386013号、特許公開2010-161943）。今回、改めて実施した実証試験において、従来型のバリカン刃と比較して、使用電力量を大きく節減できることを具体的に確認した。近年、園芸用機器もコードレス化が進んでおり、エンジン式や電動式の機器に匹敵するパワ

ルさを求めて、ハイパワーなバッテリーの搭載を行う方向に向かっているが、現実には、同等の性能を実現するまでに至っていない。しかし、今回の新形状のバリカン刃を搭載することで、切断時の負荷を低減すれば、パワフルな電動化・コードレス化の実現性を高めることが可能となる。

その意味で、今回の新形状のバリカン刃による省エネ効果の確認は、同社の刃物の性能向上を目指す研究が、バッテリーや駆動方式の研究と相まって、コードレス化を促進し、経済性と環境保護の両面に寄与できる可能性のあることを証明したものだといえる。

【松尾勝彌社長の話】 今回の新形状のバリカン刃は、園芸機器や農業機械の電動化・コードレス化をバックアップできる刃物開発の第一歩と考え、負荷を低減して切断

することで幅広くこれが可能となる。このバリカン刃だけでなく種々の性能を発揮できる刃物の開発にも取り組んでおり、この先もユーザーの方々にとって環境面・経済面においても使いやすい刃物を提供していきたいと考えている。

問い合わせ 079-4-89-2577